

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
ばれいしょトンネル	人 2	ばれいしょトンネル	a 50	1. トンネル栽培 2. 機械化	
		計	50		
		経営耕地面積	水田 畑	200	
経営目標	1 農業総収入	2,283 千円	4 1日当たり農業所得	4,602 円	
	2 農業経営費	1,909 千円	5 1人当たり年間労働時間	325 時間	
	3 農業所得	374 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐用 年数	年間 償却額
建物・施設	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	1	千円 5,671	年 24	千円 236
	農具舎	1	軽量鉄骨 30㎡	1	1	2,835	24	118
	ビニールハウス(浴光処理用)	1	AP単棟ハウス:100㎡(本体のみ)	1	1	497	10	25
	計					9,003		379
農機具	トラクター	1	30PS、140cm幅ロータリー装着	1	1	2,128	7	152
	管理機	1	6.2PS	1	1	278	7	20
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	1	184	7	13
	トラック	1	軽トラック	1	1	1,324	4	166
	植付け機(ばれいしょ)	1	歩行型:施肥ホッパー付	1	1	194	7	14
	マルチャー(ばれいしょ)	1	自走式・歩行型	1	1	167	7	12
	掘取機(ばれいしょ)	1	歩行型5PS	1	1	164	7	12
茎葉処理機(ばれいしょ)	1	3.1~4.0PS	1	1	527	7	38	
計					4,965		426	

3. 技術体系(ばれいしょトンネル栽培)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
種いも処理	種いも選別 種いも消毒 浴光育芽 種いも切断	11月～ 12月上	トラック	2	6	12	種いも量 280～300kg 殺菌剤 防除槽 ハウス コンテナ・トロ箱 包丁	・種いもは検査に合格したものを使用する。シストセンチュウ発生地域では、抵抗性品種の導入により蔓延防止に努める。 ・消毒は未萌芽のいもを切断せずに処理する。 ・浴光処理は種付前約30日間行い、処理中は床内が25℃を超えないようにし、途中3回程度いもを上下入れ替える。 ・種いも切断は種付数日前に、2～4つに縦切る(1片35g程度)。
耕耘・整地	耕耘・整地	10月～11月		2	2	4	堆肥 1,000kg	堆肥の多用はそうか病多発を招くので注意する。
施肥・耕耘		11月	トラクター	2	1.5	3	10a当たり成分 N 16kg P ₂ O ₅ 14kg K ₂ O 12kg	強酸性圃場では石灰質資材を補給する。
植付		11月下～ 12月中	植付け機	2	1.5	3	種いも	栽植密度: 畦幅50～55cm × 株間18～20cm (トンネル3条植) 10a当り7,000～9,000株
中耕・培土		12月～1月	管理機	1	1	1	鍬	軽く中耕し、15cm程度培土する。
マルチ被覆		12月～1月	マルチャー	2	2	4	ポリマルチ 鍬	マルチ被覆は降雨後の土壌に湿りがある時に行う。
トンネル被覆		12月～2月		3	8	24	トンネルビニール トンネル支柱 ハウスバンド バンド押え	トンネル被覆はマルチ後早めに行う。
芽出し	芽出し作業	1月～2月		2	4	8	芽出し棒	出芽が始まったら、1～2日おきに見廻り、芽が焼けないようにポリフィルムを破って芽出しをする。
温度管理	換気	3月～4月		1	17	17		日中25℃以上にならないように注意する。また、霜害にも留意する。
病害虫防除	薬剤散布	2月～3月	動力噴霧機 トラック	2	3	6	殺菌剤・殺虫剤 防除タンク	県病害虫防除基準に基づく適正防除。 ウイルス病、青枯病等の被害株は早期に抜き取り処分する。
収穫	トンネル除去 茎葉除去 マルチはぎ 収穫	3月中～ 4月上	茎葉処理機 掘取機 トラック	2	8	16	鍬・鎌 コンテナ	いもの皮むけや傷をつけないよう丁寧に扱う。
出荷調整	調整・箱詰め	3月中～4月		3	8	24	ダンボール	家庭選果・箱詰めし、出荷する。
出荷		4月	トラック	1	2	2		
後かたづけ	ほ場清掃	4月～5月	トラック	2	3	6	コンテナ	茎葉、くずいもは病害虫の伝染源となるので片付け、処分する。
計						130		

